日本ＳＯＤ研究会報

# 特集 丹羽療法 治療レポート

## 風邪、インフルエンザ、肺炎の見分け方と対処の仕方は？

### 丹羽療法を医師に理解してもらう方法

発行元 日本ＳＯＤ研究会 宮城
住　所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川 1-15-2 Ｂ棟 2802
TEL. 03-5787-3498
協力：株式会社丹羽メディカル研究所
http://www.niwa-medical.com

毎年、冬を迎えるこの季節になると、インフルエンザの予防接種が話題になります。さらにここ数年、肺炎球菌ワクチンの接種を勧めるテレビのＣＭも冬になると頻繁に目にします。近藤誠先生の著書『ワクチン副作用の恐怖』（文芸春秋刊）の中にも、肺炎球菌ワクチンは打っても打たなくても、肺炎球菌の死亡者数は変わらないという医療機関の試験データを列記しています。さらにワクチン接種を奨励して、年に１００億円が製薬会社に流れているとも書いてあります。そこで今回は、インフルエンザ、肺炎といった菌やウイルスによる疾患について丹羽先生にお話しを伺ってきました。さすがに丹羽先生の診療所には単なる風邪やインフルエンザなどでいらっしゃる患者さんはいませんが、重篤な疾患の患者さんは、おのずと自己免疫力が落ちていますから風邪やインフルエンザなどにかかりやすくなるといいます。ですから、予防はどんな方にも必要なことかもしれません。

## 肺炎患者は年寄りばかりほとんどが誤飲性肺炎

**――最近、冬になるとテレビで肺炎球菌の予防接種を勧めるＣＭが頻繁に流れますよね。肺炎は日本人の死因の第３位だとか、65歳以上の人には自治体からの補助があるとか。肺炎というのは本当にワクチンで予防できるのでしょうか。**

丹羽「肺炎が日本人の死因の第３位とはいっても、65歳以下の人が肺炎にかかる確率は極めて低い。ましてや普通に生活していて持病がなければ肺炎なんかそうかからない。肺炎はたいがい、手術をしたりして免疫力が低下しているときに、合併症のひとつとしてかかりやすいものです。例えば食道がんの手術をすると、術後に誤飲性肺炎を起こして亡くなる確率はすごく高い。それを肺炎で亡くなっ

たとカウントするわけで、本当は食道がんの手術の術後経過が悪くて、とはカウントしない。だいたいが、肺炎なんていうものはほとんど年寄りがかかるものです。今の世の中、年寄りが多いんだから、かかれば死ぬ数も多いし確率も高い。当たり前のことです」

**――なぜお年寄りがかかるのでしょうか？**

丹羽「そんなもの分かり切ったことです。免疫力が落ちる、筋力が落ちるからです。普通のお年寄りでもそうなのに、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの持病があって薬をいっぱい飲んでいるとなおさらです。薬の副作用もあって、免疫力が落ちる」

**――ＣＭで肺炎球菌ワクチン接種に65歳以上は補助が出るといっていますが？**

丹羽「肺炎ワクチンというのは、肺炎球菌という菌に対するワクチンで、しかもすべての肺炎球菌に効果があるんじゃない。年寄りは肺炎球菌のせいで肺炎になるよりも、誤飲からくる誤飲性肺炎のほうが圧倒的に多い。食事中に間違って気管支に食べ物が入ることです。若い人は入っても自力で強く咳をすれば大丈夫ですが、年寄りは咳き込む力が弱いから肺に食べ物がはいってしまう。そうすると肺炎の原因になるんです。あと、年寄りは入れ歯が多いでしょ。あれも手入れが悪いと菌が肺に入る。すると肺炎を起こす。それと脳梗塞の患者さんなんかも嚥下障害といって飲み込む力がなくて肺炎を起こす。ワクチンとは関係なく起こる肺炎がほとんどです。だからワクチンさえ飲めば肺炎にかからないと思ってはいけない。だいたいワクチンというのは抵抗力をつけるためにその菌を少量体内に入れるものだから、元気なお年寄りはいいけど、病弱なお年寄りがワクチンなんかしたらそれこそ肺炎になってしまう。副作用もあるし、もう70、80歳になったらよけいな薬は体内に入れないほうがいい」

**――あのＣＭは製薬会社のＣＭで、自治体からのお知らせではないわけですよね。それに補助が出るといわれると、つい必要なことだと思ってしまいます。補助もひとり一回だけで、65歳、70歳、75歳、80歳～と５歳おきで、それ以外の人は全額自己負担なわけですよね。つまり、65歳以上は一回だけ補助が出るというワクチンだと（各自治体によって違う場合もあり**

**ます）。先生はこのような予防接種は？**

丹羽「なんにもしません。実は今年のはじめに風邪から肺炎をおこしたけれど、その時も特に何もしなかった」

**――え？　それで治ったんですか？　薬などは？**

丹羽「僕は風邪でもインフルエンザでも薬は飲まないです。薬なんか効かないから。風邪もインフルエンザもウイルスであって、みなさんが医者からもらう風邪薬は抗生剤。菌に効くけどウイルスには効かない。もうね、風邪をひいたと思ったら、風呂には入らずに暖かくして寝ること。それにつきる。あとはこまめに着替えること。僕はいつも3枚くらいの着替えは手元に用意しています」

**――さすがに肺炎は大変なのでは？　どうして肺炎だと分かったのですか？**

丹羽「咳がなかなかひかなくて、痰が良く出ていたから、痰を調べたら肺炎だった。でも薬は飲まなかった。ま、ＳＯＤをいつもより多めに飲んで、ビタミン注射を打っただけ」

**――ＳＯＤはどれくらい？**

丹羽「そのときは９ｇ入りを10包くらい」

**――やはり風邪くらいで病院に行ってはいけないといいますが、そのとおりなんでしょうか？**

丹羽「やっぱり休養がいちばんの薬です。無理して病院に行って長いこと待たされたら余計に具合がわるくなる。しかし、お年寄りで高熱と咳、痰が3日以上続くようなら、それは病院に行ったほうがいいです。なぜかというと、そこから肺炎を起こす可能性が高いから」

**――見極めが難しいですね？**

丹羽「とにかく、個人差はあるが、70歳過ぎた年寄りは2、3日咳や痰、高熱が治らなかったら病院に行ったほうがいい」

**――では病院で処方された薬は飲んだほうがいい？**

丹羽「それもケースバイケースです。病院に行ったほうがいいというのは、単なる風邪か、それとも肺炎を引き起こしているのか調べるためです。単なる風邪やインフルエンザなら、早く家に帰って、温かくして寝ること。薬なんか効かないからいらない。食欲がないなら食べなくてもいい。水分だけ摂って寝ること。それが肺炎となると、病院でいろいろな処置をしてもらう必要が出てくる。痰が絡んでのどに詰まったらいけないから、吸引してもらったり、点滴や抗生剤が必要だったり、応急処置はしてもらわないといけない。でないと年寄りは咳だけで骨折して死んだりするからね」

## 医師にうまく説明できない丹羽療法先生のＨＰや著書を使ってみる

**続いて丹羽先生にうかがったのは、東洋経済誌に掲載されていた記事に関することです。その記事は、今、がんの患者さんの3分の2は、何かしらの代替医療を併用**

**している、知らないのは現場の医師だけだというものです。そして、記事を書いている医師は言います。代替医療をはなから拒否する医者が多い。でもそれは、本当に効果があるものを見過ごしているかもしれない。医師も学ぶ必要がある。また、病院で処方している薬との併用で副作用の出るものもあったり、あまりにも高額で詐欺まがいのものもあるかもしれないので、患者さんは医師に伝えてほしいといいます。**

**そもそも代替医療とはどのようなものでしょうか。**

**代替医療というのは、厚生労働省の資料（平成24年）によると、現代の西洋医学以外の医学や医療の総称です。この中には、東洋医学（漢方、鍼灸、気功など）全般、食養生、アーユルベーダ、ホメオパシー、アロマテラピー、カイロプラクティック、波動医学、色彩療法、各種サプリメント、呼吸法、太極拳などの他、医療・療法としてはまだ認知されていない様々な療法が入ります。丹羽療法も医師が施すものですが、自由診療（保険診療でない）ですからこの範疇に入るそうです。**

**そんな丹羽療法あるあるに、がんと診断され、丹羽先生の診療を受け、制癌剤生薬を飲んだ、あるいはＳＯＤを飲んだ患者さんが、病院で検査をした結果、がんマーカーの数値が上がらない。中には減少したという検査結果が出るというものです。丹羽療法のことを医師には伝えない患者さんがほとんどだという事実。そこには、言っても信じてもらえない、はなから拒否されるからという理由がありました。**

**加えて、丹羽療法やＳＯＤのことを人が理解するように説明するのが難しいということもあるのかもしれません。そこで、丹羽先生に、丹羽療法を医師に説明する方法を伺ってみました。**

丹羽「医者はみんな自尊心が強いんです。おまけに周囲から先生、先生と言われて尊敬を集める。そうなると、自分がやっていること以外の意見を受け付けないことがほとんどだと思う。抗がん剤をやらないのにがんが縮小したというデータを見ても半信半疑。良かったですねと患者さんには言うけれど、心の中では、この患者さんだけがたまたま偶然にそうなったんだろうと思ってしまう。だから他の療法には興味も示さない。ＳＯＤを飲んでいるといっても、ああ、健康食品ね、サプリね、くらいです。そういう人には何を言っても無理でしょう。それでもたまに他の療法に興味を持って勉強しようとする先生もいます。もしも、そういう先生に出会ったら、丹羽療法のことを話してみるといいです。話すのが難しければ、僕の本を読んでもらってください。それがいちばん。『国際がん学会が認めた延命効果世界一の丹羽がん療法』（徳間書店刊）、『がん治療究極の選択』（講談社刊）、『白血病の息子が教えてくれた医者の心』（草思社刊）この3冊でだいたいのことは理解してもらえると思います。本を持参するのが大変なら、インターネットから土佐清水病院のＨＰ（http://tosashimizu-hospital.com/）を見てもらうのもいいです。あと日本ＳＯＤ研究会のＨＰ（http://www.sod-jpn.org/）も参考になると思います」

**――なるほど。化学的なデータもそろっているし、先生の研究のことも詳しく書かれているし、患者さんの声もありますからいいですよね。逆に、それでも耳を貸さない医師というのはいかがなものでしょうか？**

丹羽「ああ、そういう医師からは離れたほうがいい。僕の診療を受けるにしても、やはり精密な検査などは保険適用の病院で受ける必要がありますが、検査だけで自分の治療をしないのならもう診ないと言ったり、急に機嫌が悪くなる

ような先生はやめたほうがいい。今はそんな時代じゃない。理解があり、好奇心を持ってくれる先生は必ずいますから」

丹羽先生が医師に見せてほしいお勧めの著書

SOD愛飲者
インタビュー

# 不眠、胃腸障害、頻尿の悩みがSODで軽減

茨城県にお住いの歯科医師　泉 信之さん（71歳）

茨城県郊外の町で歯科医院を営む泉さん。現在も現役歯科医師として診療を行う日々。診療所には小さなお子さんからお年寄りまで、近所の方々が毎日ひっきりなしに訪れます。なかでもやはりお年寄りの来訪が多いといいます。加齢と共に歯にもいろいろな問題が出てきます。同年代の患者さんたちと話していると、65歳を過ぎたあたりから、身体に無理がきかなくなったとか、眠れない、といった体調不安の話が多いそうです。そして決まって聞かれるのが

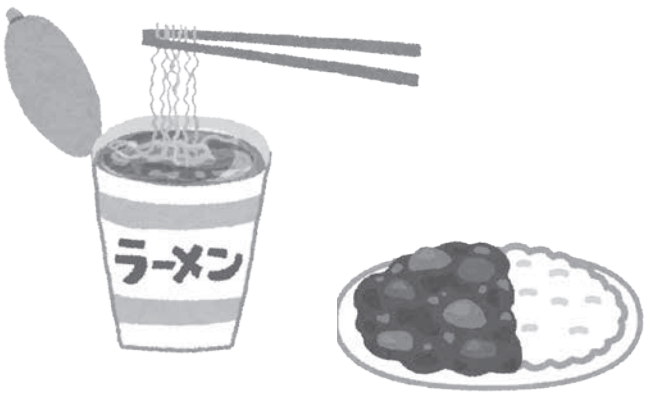
「先生、最近、いいものありますか?」

という質問だそうです。医学に精通している泉先生に聞けばきっといいものを知っているはずとみなさん思うようです。そんな時、最近はＳＯＤを勧めているといいます。

「もともと子供の頃から虚弱体質で、特に胃腸が弱かったんです。油っこいものを食べるとすぐに胃もたれを起こしてしまう。みんなはインスタントラーメンとかハンバーガーとか平気で食べていたけど、僕は全くダメでした。インスタントラーメンに至っては食べたこともないんです」

ラーメンだけでなく、日本人ならみんなが大好きなカレーライスも食べられない。天ぷら、とんかつ、唐揚げもダメというのには驚きでした。こんな美味しいものたちが食べられないなんて、人生の半分損しているような気になります。

「損しているんでしょうね。でも、もう慣れているから。でも、若い時というのは、虚弱といってもエネルギーがあふれていますから大丈夫。普通に野球などもやっていましたよ」



**そんな泉さんが、体のコントロールが効かなくなってきたなと感じたのは60代半ばを過ぎた頃でした。**

「胃腸の不安定からきているんでしょうね。疲れやすくなって、眠りが浅く、だるさが取れないんです。あと、頻尿にも悩まされ、やはり胃腸がちゃんと活動をしないと、身体全体が弱るんですよ。すると体温も上がらず、風邪などにかかりやすくなる」

**体質のこともあって、様々な健康食品を体調管理のひとつとして試してきたそうです。**

「胃腸が弱い、だるい、疲れやすい、腎機能といったうたい文句にはすぐ反応していました。朝鮮人参や乳酸菌商品からミドリムシまでいろいろ試しましたけど、どれも効果らしきものは実感できなかったですね。一か月分で4、5万円もする乳酸菌の健康食品を飲んでいた時もありました。ところがそれを勧めてくれた人が白血病になって、ああ、こんなんじゃダメだと気づきました。以来、その乳酸菌はどうですか?と知り合いに聞かれると、ヤクルト飲んでいるのといっしょだと言っています。お金の無駄でしたね。乳酸菌は胃腸に必要だけど、サプリが直接病気に効くわけではないんです」

**そんななか、ＳＯＤと出会ったのでした。始めは知り合いの方からの勧めでした。そして次に資料を読んだり、開発した丹羽先生のことを調べたそうです。歯科医ですからそのあたりの情報収集は怠りません。**

「非常に納得しました。僕たちは身体のメカニズムについて勉強してきていますから、ＳＯＤ酵素が身体には必要なものだと知っていました。加えて活性酸素が万病の元であることも理解できました」

**これは単なるサプリではないかもしれないと思い、飲み始めたのが2年前のことでした。**

「飲み始めて一か月くらいでいろいろなところに効果が現れましたね。まず、身体が軽くなったというか、疲れやだるさが少なくなったんです。それと同時に眠りの質が変わりましたね。以前は夜中に目が覚めるとなかなか眠れなかったのに、今は、夜中に目覚めてもすぐに眠れるようになりました。排尿の間隔も少し伸びたようです。腎機能も好転するとのことなので、続けて様子をみようかなと」

**通常は一日5包。体調が悪いときは多めの7～8包と調子に合わせての使い分けも慣れたもの。**

「薬はほとんど飲まないようにしていますが、それでも睡眠導入剤だけは飲んでいますね。周囲の仲間も、60歳過ぎるとみんな飲んでいますね。でないと眠れない。寝ないと体調崩しますから、睡眠は年寄りには大事です。それにＳＯＤがあるから」

**ＳＯＤという心強い味方ができた感じだとか。**

「うちでは家内も飲んでいますし、犬にもあげています。便秘がちだったのがなくなったんです。犬は本能で酵素を欲しているのがわかりますね。掌にＳＯＤを置くと、喜んで舐めますよ。散歩などで道端の草を食(は)んだりしていたんです。あれなんかは酵素を草で補おうとする本能だと思いますから、ＳＯＤは犬の健康にもいいですね」

**ＳＯＤがご家族みんなの健康維持に役立っているようで嬉しい限りです。さらに先生は、いろんな方に勧めてくださっているようで、**

「知り合いの女性が血管肉腫だったんですが、ＳＯＤですっかり治ったんです。通っていた筑波大の医

師にＳＯＤを見せたら、医師がノートに記録していたそうですよ。最近は医者もこういうのを知らないといけませんよね」

**泉さんの場合、健康管理はこれだけではありません。**

「胃腸が弱いということは、体温が上がらないということなんです。だから、10月に入るともう寝るときは電気毛布を敷いてますよ。いちばん弱い温度設定ですが、あるとないとでは大違いです。夏の冷房も必要なんですが夜寝ていると寒かったりしますよね。それでお年寄りが冷房を切って寝て熱中症になったりする。その調節が難しいんですが、我が家は、隣の部屋の冷房をつけっぱなしにして、部屋の仕切りのふすまを少し開けて寝るんです。そうすると直接の冷気は当たらなくていいんですよ。いろいろ生活も工夫して過ごしています」

**なるほど、冷暖房もそういう間接的な使い方が有効だとは知りませんでした。さすがです。**

**このインタビューは毎回、愛飲者のお葉書をくださった方の中からお話しを伺っています。泉さんもお葉書から連絡させていただいたのですが、お葉書には職業等は書かれていなかったので、歯医者さんだとは思わず、インタビューしていました。医学のことに詳しいなとは思っていたのですが、お仕事内容を伺ってようやく、歯医者さんだと分かった次第です。とても謙虚で、周囲の皆さんから信頼されているのがよくわかります。**

「でも、なかには西洋医学しか、という方もいらっしゃるので、ＳＯＤのような本当にいいものでも人に勧めるのは難しいですね。ただ自分が身をもって体感しているから、やはり勧めたくなるんですけどね」

**ありがとうございます。**

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。
※自由診療となります。
丹羽メディカル研究所
☎０１２０（７３１）１７５
もしくは
日本ＳＯＤ研究会
☎０３（５７８７）３４９８
まで　お電話ください。

## ＳＯＤ様作用食品
## 体験者の声を
## お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都 世田谷区
玉川１-15-2　Ｂ棟2802
**日本SOD研究会**　宮城宛
**TEL 03－5787－3498**
までご一報下さい。

## ●ＳＯＤ様作用食品とは●
# 丹羽博士の開発

ＳＯＤとは、スーパーオキサイド・ディスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康のカギを握る物質として「活性酸素」と「ＳＯＤ」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くＳＯＤという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のＳＯＤだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにＳＯＤという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽ＳＯＤ様作用食品です。

開発した丹羽靭負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにＳＯＤの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った〝自然の摂理〟は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。〝病気は自分が治すもの〟私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、ＳＯＤなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

## SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。
最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。
「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのでしょうか?」というような、ご質問をよくいただきます。
その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で製造されたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

**エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴**

原寸大　横 30mm、縦 25mm

- **管理番号は６桁**
  ※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- **シール左部分に絵や記号が記載されている**
  ※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- **他の工場で製造された製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある**